

# 美術部へようこそ! 宮城県名取市立第一中学校

共同制作に力を入れている名取市立第一中学校。  
近年では、段ボールを使った立体作品を多く制作し、話題を呼んでいます。その活動をご紹介します。

## 迫力ある立体の制作

高さ3メートルを超える、段ボールでつくられた人気アニメキャラクター「ガンダム」。その堂々たるたたずまいに、思わず息をのむ。この作品は、名取市立第一中学校の美術部が毎年制作しているもの。

もともと、ガンダムの制作は、宮城県立多賀城高等学校の小川進先生が2001年に始めたものだ。「文化祭の目玉となる大きな立体をつくりたいと思っていたときに、生徒からガンダムはどうかと提案がありました。それで生徒たちと一しょにパソコンのソフトを使って型紙を一から起こし、制作したんです。学校内外から大きな反響がありましたね。今は『段ボールアート』として、ガンダムだけでなく、さまざまな立体制作に挑戦しています。平面だったものを組み立てて立体にしているのって、完成したときの感動が大きいんですよ」と小川先生。

この「段ボールアート」の取り組みは話題を呼び、県内だけでなく、県外の中学校・高等学校にも広がっている。名取市立第一中学校・美術部顧問の佐々木裕美子先生も、「段ボールアート」に魅せられた一人。小川先生の指導を受け、美術部員と段ボールを使って立体作品を制作している。特に、ガンダムは親世代からの人気が高く、学校を訪れる保護

者からの評判もよいという。

## つくる喜びを共有したい

ガンダムの制作の手順は、まず型紙をあてて段ボールを50以上のパーツに切り出す。そして、そのパーツをボンドで固定していく。頭、腕、胸など部分を組み立て、最終的にすべてを合わせて完成させる。特に、最後の組み立ての場面では、上級生が脚立にまたがり、下級生にテキパキと指示を出して頼もしい。完成すると自然と拍手が起き、全員が笑顔に。

以前、同校の美術部員は20名ほどだったが、「段ボールアート」に取り組むようになってから「自分もあいう立体作品をつくってみたい」と、男子部員が急増し、今や男子25名、女子26名の大所帯だ。

佐々木先生は、普段から共同制作の場面を多く設定するように心がけている。2014年には、地元のサッカーチーム「ベガルダ仙台」の創設20周年を記念し、マスコットキャラクター「ベガッ太」を段ボールでつくった。スタジアムにも飾られ、地元新聞で取り上げられるなど評判に。生徒たちは、「大きな立体作品が完成すると、すごく達成感があるんです」とうれしそうに話す。

「つくる喜びをみんなで共有したい」と語る佐々木先生。その思いは、生徒へ確実に届いているようだ。



左/型紙をあて、ていねいにダンボールを切り出していく。上級生が下級生に教える場面も多くみられる。  
右/ホットボンド(※)でパーツを接着させる。ボンドの乾きが早いので、手早く作業を行う。  
※熱で溶けるボンド。工具を使って接着する。

# 教室を飛びだして

## NPO法人 BEPPU PROJECT

NPO法人 BEPPU PROJECT (大分県別府市)が取り組む、アーティストと小・中学生による創作のワークショップについてご紹介します。



分県別府市を拠点に活動を続けるNPO法人「BEPPU PROJECT」。アートのもつ、自由なものの見方や創造性を社会に広めるべく、アートイベントの企画・運営をはじめ、教育普及活動なども行っている。県内の小・中・特別支援学校にアーティストを派遣するプログラムも、その一つだ。アーティストによるワークショップを通して、子どもの自由な発想力や創造力を引き出すこのプログラムでは、学校と連携し、授業づくりの支援まで行う。

アーティストの専門分野は、音楽、ダンス、現代アート、写真などさまざま。昨年、大分市立佐賀関中学校を訪れたのは、風景・文化・社会という切り口から「食」を捉えた作品制作を行う「風景と食設計室 hoo」。「風景を食べる」というテーマのもと、生徒

とともに、風景を写真で切り取った「料理」づくりに取り組んだ。「食べるなら」と思って見た瞬間に、日常の風景が料理に見えてきます。アーティストとの関わりが、世界を眺める見方を変えるきっかけになれば」と語るのは、本プログラム担当者の古原彩乃さん。

同団体では、他にも、アーティストと遊びをつくるなど、小・中学生を対象としたプロジェクトを展開している。「町とアートのつなぎ手」としての活動から、子どもたちの表現・創造する喜びが広がっていく。



器が描かれた紙を当て、道端の花を料理に見立てて撮影する生徒。

NPO法人 BEPPU PROJECT  
www.beppuproject.com

# 放課後

第7回

# ART